

## 食道癌に対するロボット支援胸腔鏡手術

外科医長 前山 良

胸腔鏡による食道癌手術は、従来の開胸手術に比べて傷が小さく、身体への負担を抑えられる点が最大のメリットです。身体のダメージが少ないため、痛みの軽減や呼吸機能の維持、出血や肺炎などの合併症のリスク低下により、早期の社会復帰が可能になります。また、本邦における最近の臨床試験の結果、胸腔鏡下手術は開胸手術に比べて生存期間が同等かそれ以上であることが証明され、日本食道学会の治療ガイドラインでもスタンダードな治療と位置づけられるようになりました。一方、この手術は難易度が高いため、胸腔鏡下手術に精通した医師が行う、あるいはその指揮のもとに行うことが推奨されています。

当院では胸腔鏡の技術審査に合格した食道学会専門医が常勤しており、最近話題のロボット支援による胸腔鏡手術も実施しています。ロボット支援手術は、従来の胸腔鏡手術に比べて肋骨による動作制限を受けにくく、多関節機能を有するロボットアームにより精細な動きが可能となるため、嘔声や誤嚥の原因となる反回神経麻痺などの合併症の軽減が期待されています。当院での手術をご希望の方は、外科外来までお問い合わせください。

